



受領式に出席した荒川社長(左から3人目)ら

## コロナ対策に役立てて

荒川産業が純銀イオン水を町に寄贈

資源リサイクル業などを展開する荒川産業(喜多方市)は2月17日、コロナ対策に役立ててほしいと町に除菌や抗菌ができる「純銀イオン水」300リットル計1000本を寄贈しました。受領式は町役場で行われ、同社の荒川健吉社長が前後公町長に目録を手渡しました。前後町長は「学校などでの感染予防対策に活用します」と感謝の言葉を述べました。受領式には、猪苗代小学校の野中伸也教頭と6年生の眞田楓音さん、瀬谷すみれさんが同席しました。

## 町づくりの指針を審議

第七次町振興計画後期計画答申

町振興計画審議会の渡辺真一郎会長は2月1日、第七次町振興計画の後期計画に対する審議結果をとりまとめ、前後公町長に答申書を提出しました。答申では、新型コロナウイルス感染症対策事業やSDGsの推進、小学校統合事業などを追加項目として盛り込みました。町では、答申内容を検討し、令和3年度中に第七次町振興計画後期基本計画を策定します。後期基本計画の期間は令和4年4月1日から5年間です。



前後町長に答申書を手渡す渡辺会長(右)

## 広域連携の枠組みを広げる

こおりやま広域圏が21の企業・団体と連携協定

郡山市や本町などでつくる「こおりやま広域連携中枢都市圏」は2月7日、小売りや金融、保険など21の企業・団体と連携協定を締結しました。連携の枠組みを広げ、地域活性化や人口減少対策、環境問題などの地域課題の解決に取り組みます。協定締結式はオンラインで行われ、各市町村長や企業・団体の代表者が協定書に署名しました。郡山市の品川萬里市長は「新たなビジネスが展開されることを期待します」とあいさつを述べました。



オンラインで協定を締結する前後町長

## 有事に備え機械を更新

町消防団の機械を整備

町から町消防団への消防機械交付式は1月31日、町役場で行われました。今回更新された消防機械は軽積載車2台で、第1分団川上班と長坂班に配備されました。

式では、前後公町長が「消防機械を更新した周辺地域の安全・安心を確保するため、今後も訓練と予防消防に取り組んでください」とあいさつを述べ、六角武志町消防団長に軽積載車の鍵を手渡しました。



新たに配備された軽積載車



くす玉を割り落成を祝う出席者

## 新校舎の落成を祝う

町統合中学校新校舎落成式

町統合中学校新校舎落成式は2月25日、同校新校舎で行われ、関係者ら約110人が出席しました。式では、前後公町長が「新しい校舎で将来を担う子どもたちが健やかに成長することを願います」とあいさつし、高野武彦県会津地方振興局長らが祝辞を述べました。工事関係者や寄贈品の贈呈者に感謝状が贈られた後、統合する3校の生徒代表や関係者がくす玉を割り、新校舎の落成を祝いました。

## パラリンピックへの抱負語る

鈴木猛史選手激励金贈呈式

北京冬季パラリンピックのアルペンスキー男子座位に出場する本町出身の鈴木猛史選手への激励金贈呈式は2月22日、町役場で行われ、前後公町長が鈴木選手に激励金を手渡しました。

鈴木選手は「手の骨折などでスキーができない期間があり、不安もありますが全力でメダルを狙いたいです。私の強さのベースは猪苗代にあります。支えてくれる皆さんへの感謝の気持ちを込めて滑りたいです」と力強く抱負を語りました。



前後町長から激励金を受ける鈴木選手(右)

## 運営体制など評価受ける

磐梯山ジオパーク「日本ジオパーク」に再認定

日本ジオパーク委員会は1月28日、北塩原、磐梯、猪苗代の3町村にまたがる「磐梯山ジオパーク」を貴重な地形や地質を持つ「日本ジオパーク」に再認定しました。2019年の前回審査では、条件付きの再認定となっていたことが、基本計画と保全計画が策定されたことに加え、人材確保による協議会の運営体制の強化や関係団体との連携による活動の広がりなどが評価され、2015年以来の再認定を受けました。



再認定の報告を受けた3町村の首長ら

## 夏に続き新人戦も全国大会へ

猪苗代スポ少がソフトボール全国大会に出場

県ソフトボールスポーツ少年団大会(新人戦)は昨年10月、福島市のあづま総合運動公園で開かれ、猪苗代スポ少がトーナメントを勝ち抜き、見事初優勝を果たしました。同スポ少は、猪苗代、長瀬、吾妻の3小学校の児童で構成され、昨年8月の全国大会に引き続き、新人戦でも全国大会出場を決めました。

全国大会は、3月26日から福岡県北九州市で開かれ、初戦で福岡県代表と千葉県代表の勝者と対戦します。



全国大会出場を決めた猪苗代スポ少のメンバー